

倒木を防ぐ樹木管理の必要性—歴史的建造物と人身への事故を防ぐ—

本シリーズセミナーは、歴史的まちなみの伝統的木造建造物を、伝統文化を活かした手法で様々な災害から護り被害を軽減するための課題と対策をさまざまな視点から学び考える場です。

今回のセミナーは台風期に多く見られる樹木災害がテーマです。

樹木は様々な災害の拡大を抑制する役割を果たしていますが、生物として成長・変化し、寿命もあるため、一方で災害を誘発する要因にもなっています。特に建物・擁壁・道路等の近傍に植樹された大木は、台風・強風が誘因となって建物・擁壁、車両、通行人等に被害を及ぼす可能性が高いと言えます。

そのため、歴史的な建造物やまちなみの歴史的・文化的景観の形成・維持に重要な役割を果たしている樹木を今後、どのように位置づけて、維持・管理していくかについて、神社境内の建物・樹木の見学と最近の研究事例から学び、考えます。お気軽にご参加下さい。

■プログラム

★12:45 今宮神社の南側楼門（今宮通沿い）を入れて西側の「絵馬舎」に集合（時間厳守）
京都市北区紫野今宮町21（案内図、交通アクセスは裏面参照）

★13:00 今宮神社の参拝、境内の建物・樹木の見学
案内 今宮神社様

当地区には平安建都以前より疫神を祀る社があったと言われ、平安時代の正暦五年（994年）、都の悪疫退散を祈り御輿を造営し紫野御霊会を営んだのが「今宮神社」の起こりである。

本殿（明治35年再建）、拝殿（江戸時代元禄7年（1694）再建）をはじめ、28件の建造物が国登録有形文化財に登録されている。なお、社殿の背後には境内の結界として緑の森が形成されており、松がシンボル樹のご神木となっている。

★14:00 セミナー講義

黒田 慶子（神戸大学大学院農学研究科教授）

樹木は景観や環境保全に役立ち、都市では火事の延焼を食い止めるなど良いイメージが強い。その一方で、大木が倒れて重要建造物が損壊することもある。奈良県では1998年の台風時に多くの被害があり、スギ大木の倒木によって国宝の室生寺五重塔が五層とも損壊した。また、公園での枝の落下や道路への倒木が人身事故となる事例が増え、近年では管理者の責任が問われるようになってきた。

しかしながら、防災の認識には「樹木に関わる災害・事故」が含まれていないことが多い。このような樹木に起因する事故の防止には、まず樹木が建造物に与える影響や、大木の危険度の把握から行う必要がある。しかし現状では診断技術が不完全であることや、危険判断の基準が定まっていないなどの課題がある。

セミナーでは森林科学の調査から見えてきた事柄を紹介し、調査手順について提案する。

★15:40 意見交換（16:30頃 閉会）



今宮神社 本殿(2003.6.29 撮影)



境内の松(2014.10.26 撮影) 江戸時代の境内図の一部(今宮神社 HP)



★講師 黒田 慶子 氏のプロフィール

専門分野：森林保護学・病理学、樹木組織学。ナラ枯れやマツ材線虫病の発病メカニズム、樹幹の水分通導などミクロな世界を研究する一方で、予防医学の観点から里山や人工林の健康維持に取り組む。国立研究開発法人森林総合研究所勤務の後に神戸大学大学院農学研究科教授。京都市文化財保護審議会委員、京都府環境審議会委員など担当。
ホームページ <http://www2.kobe-u.ac.jp/~kurodak/Top.html>



- 会 場：今宮神社（京都市北区紫野今宮町 21）
- 参 加 費：1,500 円（資料付、学生 500 円）、
セミナー終了後の懇親会（会場移動）1,500 円程度
- 参加方法：定員 40 名（申込み先着順）。お名前、所属、電話・FAX 番号、メールアドレス及び懇親会の参加の有無を明記の上、9 月 15 日（土）までに FAX または メール、電話でお申込み下さい。
- 参加申込・問合せ先：NPO 法人 関西木造住文化研究会（略称 KARTH:カース）
TEL 075-411-2730 悠計画研究所内、FAX 075-411-2725、
E-mail info@karth.sakura.ne.jp <http://karth.org/>
京都市上京区上立売通浄福寺西入姥ヶ東西町 632 番地
- 交通アクセス
バス停「今宮神社前」下車すぐ、又はバス停「船岡山」下車 北へ徒歩 7 分
詳細は⇒ <http://www.imamiyajinja.org/>



今宮神社社紋 三階松



楼門（南側の今宮通沿い）



●集合場所 絵馬舎
（南側楼門を歩いて西側）



これまで開催したシリーズセミナー（会場：西陣 薬ノ家^{ヒコバエ}：防火・耐震改修町家）

- 第 1 回 「樹木災害と文化財防災」、小玉泰義（岡山県農林水産総合センター森林研究所木材加工研究室）、2016.3/6
- 第 2 回 「火災の実態と建築物の防耐火に関する基本」、吉田正友（大阪工業大学特任教授）、2016.4/24
- 第 3 回 「伝統木造建築技術を基盤とする防災文化の再構築」、渡辺一正（NPO 市民文化財ネットワーク鳥取 理事長）、
2016.7/23
- 第 4 回 「地震の強震動から建物被害を抑えるために」、2017.2/5
 - 第 1 部 「見落とされてきた破壊的な鉛直地震動の現象について」、前原 博（（一財）地球システム総合研究所）
 - 第 2 部 勉強会「伝統木造柱梁構法の災害特性-粘り強さに籠められた仕掛け-を考える」、渡辺一正（前掲）
- 第 5 回 「大工棟梁から学ぶ一大地震でも倒壊を防ぐ木造伝統構法の智慧」、2017.7/23
 - 第 1 部「伝統木造建造物を様々な災害から護る-KARTH 研究成果の紹介 耐震対策その 1」
田村佳英（KARTH 耐震研究チーム、悠計画研究所）
 - 第 2 部 講義「大工棟梁から学ぶ一大地震でも倒壊を防ぐ木造伝統構法の智慧」、江戸 保（大工棟梁、淡路）
- 第 6 回 「歴史都市・大阪と京都から学ぶ 町家の保全・活用」、2018.6/9
 - 第 1 部 「京都の木造伝統文化、歴史的まちなみの保全と防災の両立手法を考える」
田村佳英（KARTH 防火・耐震研究チーム、悠計画研究所）、武田真理子（同左）
 - 第 2 部 「大阪の町家と長屋について」
谷 直樹（大阪くらしの今昔館（大阪市立住まいのミュージアム）館長、大阪市立大学名誉教授）